

HPIS

HPIS B III

薄肉ステンレスクラッド鋼板及び鋼帯

Stainless Clad Plates, Sheets and Strip

HPIS B III - 1991

平成 3 年 7 月 1 日改正

社団法人 日本高圧力技術協会
High Pressure Institute of Japan

日本高圧力技術協会規格

薄肉ステンレスクラッド鋼板及び鋼帯

Stainless Clad Steel Plates, Sheets and Strip

1. 適用範囲 この規格は、化学用及び食品用容器、貯そう、プール、建材及び厨房品などに使用する合せ材をステンレス鋼とした全厚8mm未満の薄肉クラッド鋼板及び鋼帯(以下、クラッド鋼という。)について規定する。

2. 種類及び記号 クラッド鋼の種類及び記号は、製造方法及びその主な用途によって区分し、表1による。

表1 種類及び記号

| 種 類 | | 記 号 | | 主 な 用 途 |
|------------|------------|--------|---------|--|
| 圧延クラッド鋼 1) | 圧延クラッド鋼 | A種 | TSC-RA | A種:クラッド鋼を強度部材として使用する場合 B種:クラッド鋼の加工性等を要求する場合 |
| | | B種 | TSC-RB | |
| | 爆着圧延クラッド鋼 | A種 | TSC-BRA | |
| | | B種 | TSC-BRB | |
| | 拡散圧延クラッド鋼 | A種 | TSC-DRA | |
| | | B種 | TSC-DRB | |
| | 肉盛圧延クラッド鋼 | A種 | TSC-WRA | |
| | | B種 | TSC-WRB | |
| | 鋳込み圧延クラッド鋼 | A種 | TSC-ERA | |
| | | B種 | TSC-ERB | |
| 爆着クラッド鋼 | A種 | TSC-BA | | |
| | B種 | TSC-BB | | |
| 拡散クラッド鋼 | A種 | TSC-DA | | |
| | B種 | TSC-DB | | |

注 1) 圧延クラッド鋼には爆着圧延クラッド鋼、拡散圧延クラッド鋼、肉盛圧延クラッド鋼及び鋳込み圧延クラッド鋼を含む

3. 化学成分 合せ材及び母材は、それぞれの規格に定められた化学成分を有するものとする。

4. 機械的性質 クラッド鋼の降伏点又は耐力、引張強さ、伸び、曲げ性、及びせん断強さは表2による。

HPIS B 111-1991

薄肉ステンレスクラッド鋼板及び鋼帯解説

本規格は、社団法人日本高圧力技術協会クラッド研究委員会において、昭和56年4月から昭和56年12月まで審議され制定されたものである。本規格制定の目的は、クラッド鋼の使用が広く行われるのに伴って、その使用先も JIS G 3601 の適用範囲にある圧力容器、ボイラ、原子炉及び貯そう以外に貯湯そう、貯水そう、一般タンク類やプール、厨房品などにも使用されるようになり、かつ肉厚も日本工業規格に規定されている8mm以下のものが数多く使用されるようになってきた。一方薄肉ステンレスクラッド鋼の生産も、圧延法、爆着圧延法、鑄込み圧延法及び肉盛圧延法で行われており JIS G 3601 の解説にあるように8mm以下の薄肉ステンレスクラッド鋼に JIS G 3601を準用することのみでは必ずしも十分とは云えない状況になってきた。この間、使用者、生産者から板厚8mm以下のステンレスクラッド鋼についても生産、流通、使用に際しよりどころとなる規格制定の希望も多く、社団法人日本高圧力技術協会クラッド研究委員会で通産省工業技術院材料規格課の指導のもとに中立委員、使用者、生産者の関係者によって本規格の作成が行われた。

今回の改正は、次のような背景から、社団法人日本高圧力技術協会クラッド研究委員会において平成2年8月から平成3年3月まで審議されたものである。

- (1) JISの鉄鋼規格の中の諸数値が平成3年1月1日以降従来単位から国際単位に変更されたこと。
- (2) JIS G 3601 が平成元年(1989年)に見直されたため、一部に整合性を取る必要が生じたこと。
- (3) 最近の薄肉ステンレス鋼の実態に合わせて適用範囲、適用材料を見直す必要が生じていること。

主な改正点は、次のとおりである。

- (1) 規格中の諸数値の単位を従来単位から国際単位とした。
- (2) 適用範囲において、用途例を追加し、製品の種類に鋼帯を加えた。
- (3) 種類及び記号は、JIS G 3601(1989)を参考に爆着クラッド鋼と拡散クラッド鋼及び拡散圧延クラッド鋼を加えた。また記号は圧延クラッド鋼の種類も含めて、これらの種類が判別できるように7種類とした。
- (4) 機械的性質はJIS G 3601(1989)との整合性も考慮して、降伏点又は耐力、及びせん断強さを新たに加える一方、運用面に柔軟性を与えた。
- (5) 適用材料として合せ材にSUS317J1を新たに加え、SUS409を廃止した。また母材に